

門真南駅周辺地区まちづくり基本構想(案)

令和 7 (2025)年〇月

門真市

目次

- 01 はじめに P2
- 02 門真南駅周辺地区の現状と課題 P9
- 03 まちづくりコンセプト P20
- 04 ゾーニング P22
- 05 ロードマップ P23

基本構想の目的

市南部に位置する北島・門真南駅周辺地域は、古くは田畑が広がる農村地帯で、現在は住宅を主とした一般市街地と工場地、農地が混在する生活と産業の場となっています。

門真南駅周辺地区（以下、本地区）では、大阪モノレールの延伸による新駅設置を契機に、本市の南の玄関口として、さらなるまちの魅力を高めるため、スポーツ施設等の運用面における課題解決や市有地の有効活用など、エリア再編に係る検討が求められています。

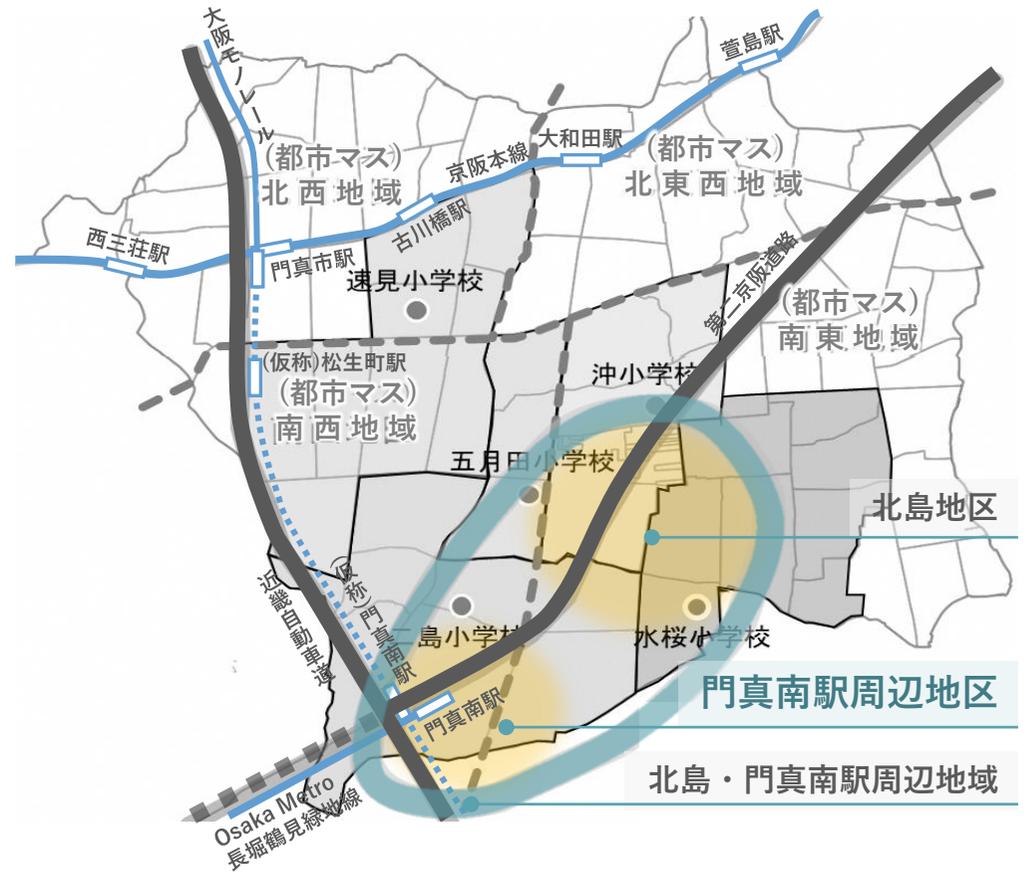
また、地域内には門真市民プラザ、大阪府立門真スポーツセンター、門真市立青少年運動広場及び門真市立テニスコート等をはじめとした市民の交流やレクリエーションの場となる公共施設も点在しています。

一方、北島周辺では、門真市南東地域まちづくり基本構想（2023）に基づき、土地区画整理事業によるスポーツ施設や産業、公園機能等の配置方針が示され、まちづくりの動きが加速しています。

以上を踏まえ、本構想では、北島・門真南駅周辺地域のスポーツ施設等の機能の在り方や機能配置の方向性等を整理した上で、2拠点が連携することで生み出される効果を最大限活用したまちづくりを目指し、本地区のまちの現状・課題を踏まえた将来像や具体的なアクションや、まちづくりの軸となる考え方、新たな機能導入・住宅の在り方等を検討することを目的とします。

北島・門真南駅周辺地域

対象地域位置図

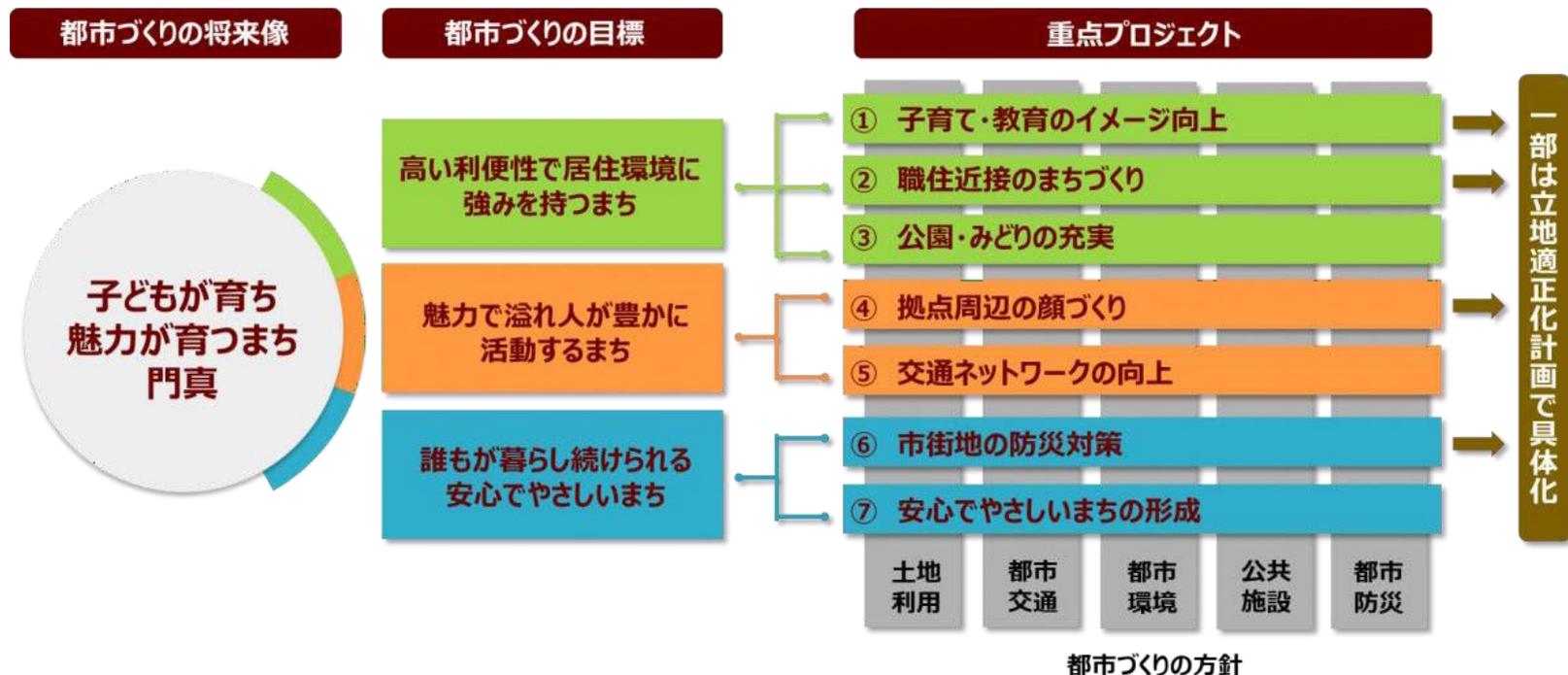


上位計画について

本市では、令和7年3月に門真市第6次総合計画及び令和4年3月に門真市都市計画マスタープランを改訂し、子育て世代の流出抑制を市全体の重要テーマに設定しています。

特に、都市計画マスタープランにおいては、都市づくりの将来像として「子どもが育ち魅力が育つまち門真」を掲げ、各種施策を重点的に展開することとしています。

都市計画マスタープランの将来像・目標、重点プロジェクト



出典：門真市都市計画マスタープラン

都市計画マスタープラン等における南西地域

都市計画マスタープランにおいて、門真南駅周辺では、新たな人の流れを引き込むような機能を整備し、賑わいが生まれるような地域を目指すとともに、みどりの基本計画においては、南の玄関口にふさわしいみどり豊かなまちづくりを推進することを定めています。そのような中、駅周辺は、まちなか生活拠点に位置付けられていますが、現在は都市機能の立地が少なく、日用品の買い物においても、ほとんどの人が他地域を利用しているなど、市民が賑わいを感じられていない状態であるとともに、店舗の充実に関する施策の満足度が他の地域と比較して低くなっていることから、多様な都市機能の集積、安全で快適な歩行空間の創出、みどり豊かなまちづくり並びに賑わいのあるまちづくりが求められています。

出典：門真市都市計画マスタープラン



01 | はじめに

基本構想の位置づけ

01
はじめに

上位計画

門真市第6次総合計画改訂版
2025.3

門真市都市計画マスタープラン
2022.3

門真市立地適正化計画
2022.3

関連計画

公園・緑化関連計画

門真市みどりの基本計画 2020.3
門真市パークイノベーション計画 2023.3

- 北島周辺は「まちづくり事業に伴うみどりの充実」に向けた緑化重点地区に指定
- 門真南駅周辺は「かどまの顔づくり」に向けた緑化重点地区に指定されており、南の玄関口にふさわしいみどり豊かなまちづくりを推進
- 公共施設の用途や規模に合わせて、民有地緑化のモデルとなる緑化を推進
- 公園とまちの資源を一体的に捉え、歩いて巡りやすいネットワークルートづくりや安全・安心で地域をつなげる公園づくりを推進

公民連携関連計画

門真市公民連携まちづくり基本方針 2021.12

- 南西地域（門真南駅等）は「自然と調和した新しい魅力を発信するまち」、南東地域（北島周辺）は「活力ある産業と魅力ある住環境の共生するまち」を目指す

公共施設関連計画

門真市公共施設等総合管理計画 2023.3
門真市公共施設等個別施設計画 2023.3
門真市公共施設再編計画 2024.3

- 建物の老朽度や今後の必要性・費用対効果などから施設の最適な配置や統廃合を進めるにあたっての考え方及びその検討状況等を示す
- 「長期的視点をもったサービス提供」「将来を見据えた施設総量」「より使いやすい施設への転換」「既存施設の有効活用」を再編コンセプトとして公共施設の再編を目指す

子ども・子育て関連計画

門真市第3期子ども・子育て支援事業計画 2025.3

- 地域社会全体で子ども・子育てに優しい環境づくりができるよう、子ども・子育て家庭を支える取組の推進
- 子育て世帯への公的賃貸住宅や民間賃貸住宅の確保や、子どもが安心してのびのび遊べる公園等の整備を主な取組として推進

現況

門真市南東地域まちづくり基本構想 2023.9

門真南駅周辺地区まちづくり基本構想

01 | はじめに

関連計画における子育てに関する施策

上位計画を踏まえ、門真市南東地域まちづくり基本構想と連携した、子ども・子育て世帯に魅力のあるまちづくりの方針が求められます。

上位計画では職住近接をキーワードとして、子どもがたくましく育つまちや子育て世帯が暮らしやすいまちを目標に定めています。また、本地区と近接する地域の門真市南東地域まちづくり基本構想においても、子育てをキーワードとして方針等が定めています。

門真市第6次総合計画改訂版 (令和7年3月)

まちづくりの基本目標①：出産・子育てがしやすく、子どもがたくましく育つまちの実現

- 妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援により、安心して出産・子育てができる環境をつくることを目指す。
- 子どもをきっかけに家族や地域など、世代を超えてつながっていく、子どもを真ん中にみんながつながる地域づくりを目指す。
- 少子化に伴う児童の減少による教育環境の変化に対応し、門真の将来を担う子供たちが多様な経験を積み、個性や能力を開花させながら、コミュニケーション能力と、グローバルな視点を持って、たくましく育つまちを目指す。

都市計画マスタープラン (令和4年3月)

都市づくりの将来像：子どもが育ち魅力が育つまち門真

- 職住近接のポテンシャルをさらに維持・強化し、子育てをしながら自宅の近くで働きやすい、子育て世代が暮らしやすい環境を構築。
- 質の高い子育て・教育環境を提供するためのまちづくりを推進し、子どもがいきいきと学び・育つ環境の形成を目指す。
- 門真市就学前教育・保育共通カリキュラムを基本とした特色ある教育・保育プログラムの実施や地域子育て支援の取組の推進等により、良質な教育・保育を提供し、子育て世代が住みやすく、子育てしやすいまちとなることで、本市の魅力を向上させるとともに、人口の流入を図る。

門真市南東地域まちづくり 基本構想 (令和5年9月)

まちづくりのコンセプト：子育てしやすい住環境の形成

- 公共施設等総合管理計画を踏まえ、公共的な機能を再編することによる生活サービスを向上
- 子育て世代の定住促進に資する住宅ストックの確保だけでなく、子どもを健やかに育てることができる機能やサービスを併せて誘導し、子育て世帯向けの良質な住環境を形成

2 拠点間連携について

北島

大規模用地を活用した 都市公園・運動施設の整備をはじめとする 都市機能の再編

●地理的な背景

北島は門真市域の中心部に位置し、すべての門真市民が利用するスポーツ施設の集積地として、適切な立地

●歴史的な背景

北島にはかつて市民グラウンドが存在し、スポーツを通じた市民の交流の場としての歴史を有する

●物理的な移転可能性

再編対象のスポーツ施設（約3.5ha）の受け皿となり得る規模の市有地（市営門真住宅建替え余地（約6.4ha））が存在

●周辺計画との整合性

土地区画整理事業で、スポーツ関連施設の配置や、市有地へのスポーツ機能の導入を検討

- 門真市域の中心部という立地を活かし、スポーツ施設や都市公園・広場を核とした、エリア内外から多様な人々が集まる新たな交流拠点を整備
- 防災機能やこどもがのびのびと遊べる機能を有する公園を整備し、防災性の向上を含めた、子育て世帯の定住促進につながる良質な住環境を形成
- 導入が検討されている民間のスポーツ関連施設と連携し、相互利用を促すことで賑わいや交流の相乗効果を創出

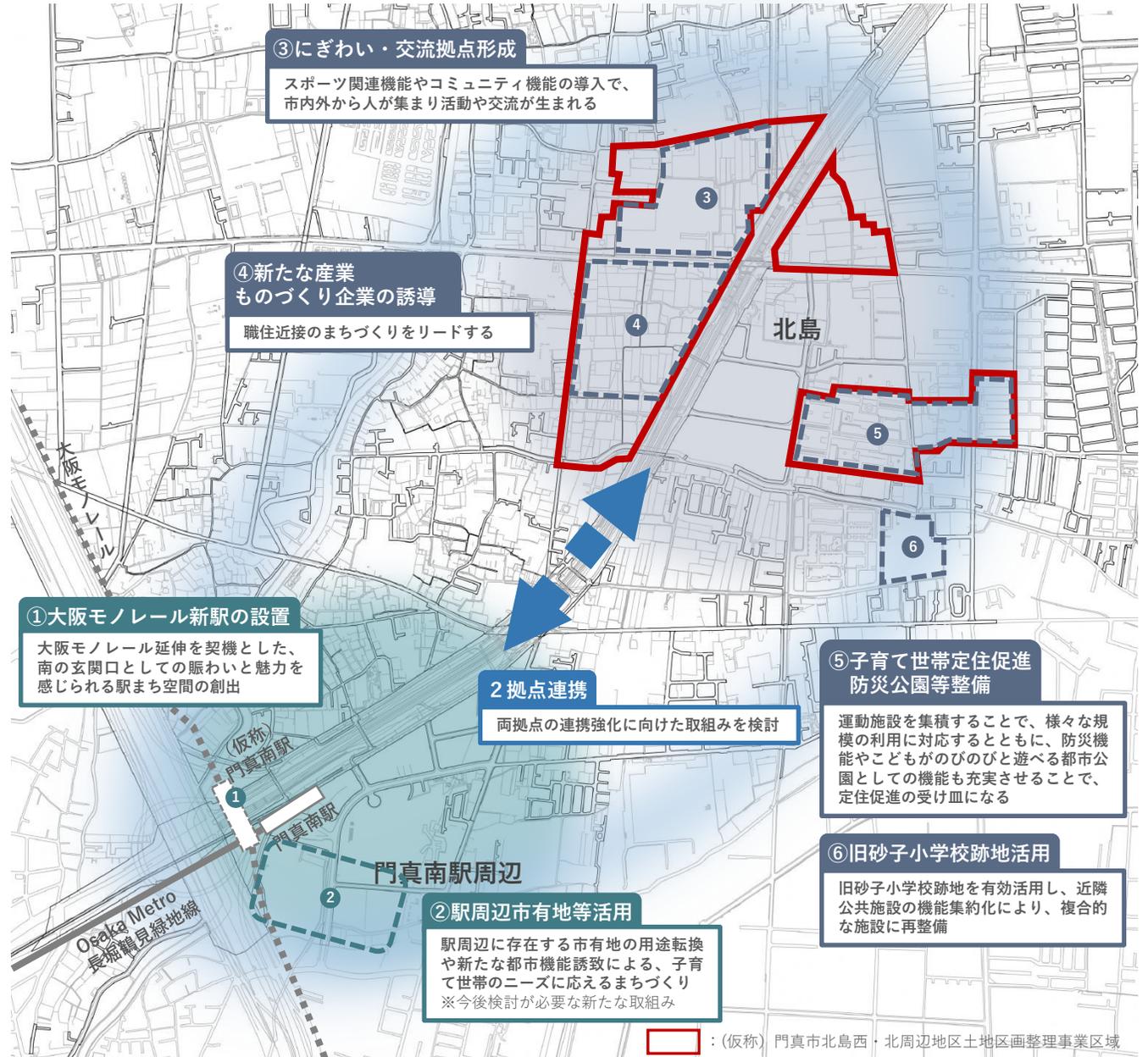


2 拠点の連携

門真南駅周辺

公共施設の機能の在り方等を検討し、 新たな都市機能を誘致

- 鉄道駅に近接した立地を生かし、子育て世帯を中心とした、定住促進のための新たな居住機能を導入
- 子育て世帯が快適に安心して暮らせる住環境を創出し、防災・交流・健康など多様な機能を持つ、子どもや子育て世帯のための公園を整備
- 門真南らしく、自然を活かし、コミュニティ形成に寄与するような機能を導入



01 | はじめに

まちづくりと連動した公共施設の機能再編の検討

北島エリアでは、土地区画整理事業が予定されており、行政機能や運動施設を集積することで利便性の向上が期待できるため、本地区では門真市立青少年運動広場及び門真市立テニスコートの公共施設の機能の在り方を検討し、門真市浄化センター跡地を含む市有地等の有効活用によるまちづくりが求められます。

関連する運動施設及び市有地

①門真市民プラザグラウンド

構造：真砂土、少年サッカーコート2面
利用種目：軟式野球、サッカー等

②門真市民プラザ体育館

体育室、剣道場、相撲場、柔道場、談話室等
構造：RC造 2階建

③門真市立青少年運動広場

構造：真砂土、両翼80m・中堅86m
利用種目：軟式野球、ソフトボール等

④門真市立テニスコート

構造：砂入り人工芝、5面
利用種目：軟式テニス、硬式テニス

⑤門真市浄化センター跡地



今後機能の在り方検討が必要となる施設

③門真市立青少年運動広場

構造：真砂土、両翼80m・中堅86m
利用種目：軟式野球、ソフトボール等

④門真市立テニスコート

構造：砂入り人工芝、5面
利用種目：軟式テニス、硬式テニス

⑤門真市浄化センター跡地

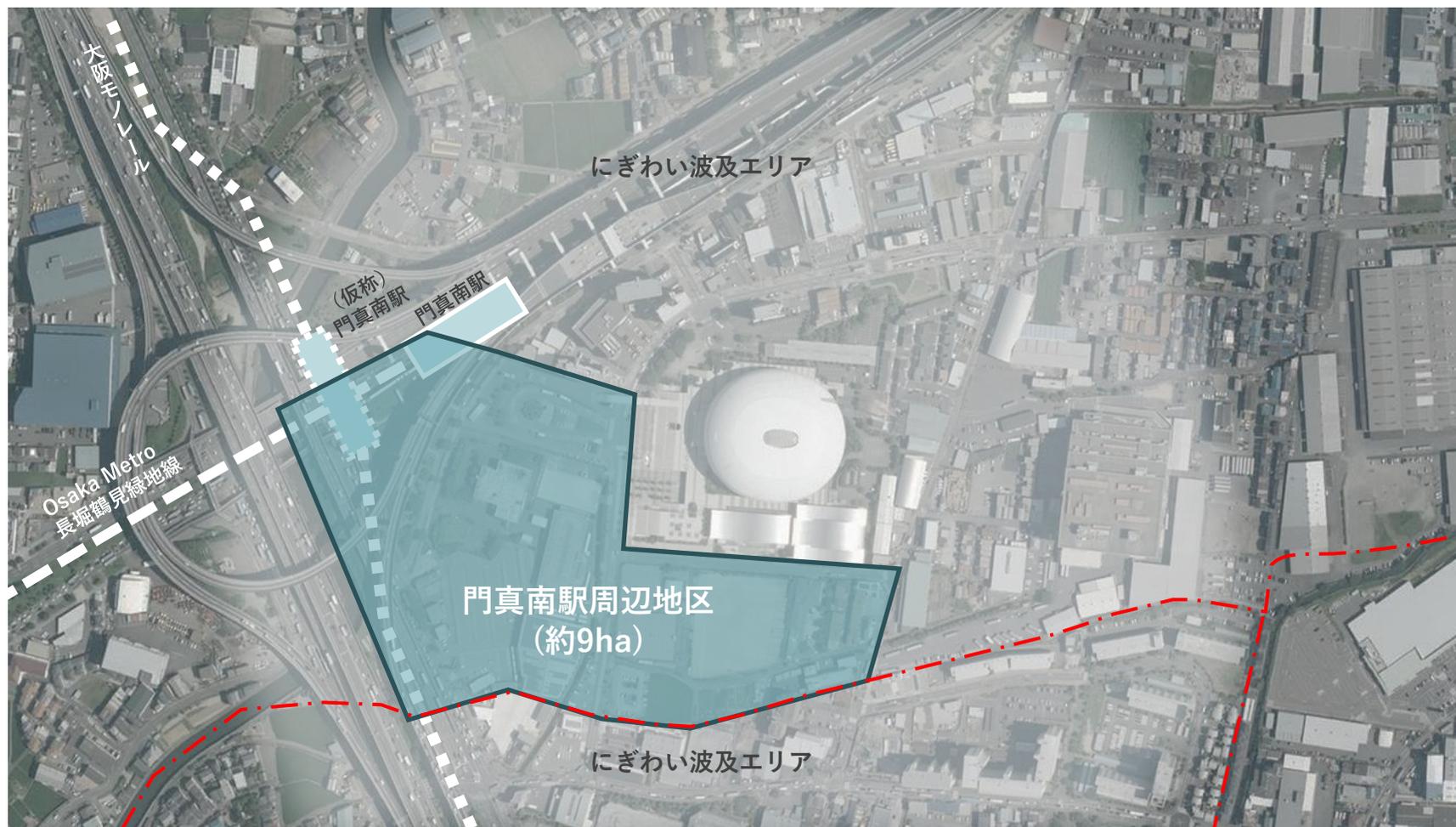
名称	機能	R5年度 利用状況	課題
①門真市民プラザグラウンド	少年サッカー2面 面積：13,500㎡	年間利用者数 45,911人 (838件) 平日 25.4% 土日祝 97.2% 合計 56.2%	<ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業区域内の市有地であり、まちづくりの推進に合わせて移転先の検討が必要 現況機能の維持が必要
②門真市民プラザ体育館	メインアリーナ、武道場、相撲場、談話室等 延床面積：2838.25㎡	平日 62.7% 土日祝 80.9% 合計 68.7%	<ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業区域内の市有地であり、まちづくりの推進に合わせて機能の在り方を検討
③門真市立青少年運動広場	野球1面 両翼80m・中堅86m	年間利用者数 29,461人 (815件)	<ul style="list-style-type: none"> 規模が小さく、ボールがネットを超えるケースがある（高圧線による建築制限あり） 安全性の確保のため、再編方針の検討が必要 現況機能の維持が必要
④門真市立テニスコート	砂入り人工芝コート5面	-	<ul style="list-style-type: none"> H7頃の設置であり、大規模修繕時期が近いいため、再編方針の検討が必要 現況機能の維持が必要

02 | 門真南駅周辺地区の現状と課題

検討対象エリア

本地区は、大阪モノレール・(仮称)門真南駅の開業に伴い、駅周辺の環境が大きく変化することが予想されます。この新駅整備のインパクトを最大限に活用し、市南部の玄関口として、さらなるまちの魅力を高めるため、公共施設の運用面における課題解決や市有地の有効活用など、エリア再編に係る検討を行い、にぎわい創出を図るまちづくりが求められます。

本構想においては、検討対象地となる本地区の現状・課題を整理し、人々の多様なアクティビティを誘発するまちづくりにつなげるための将来像や具体的な取組について検討します。

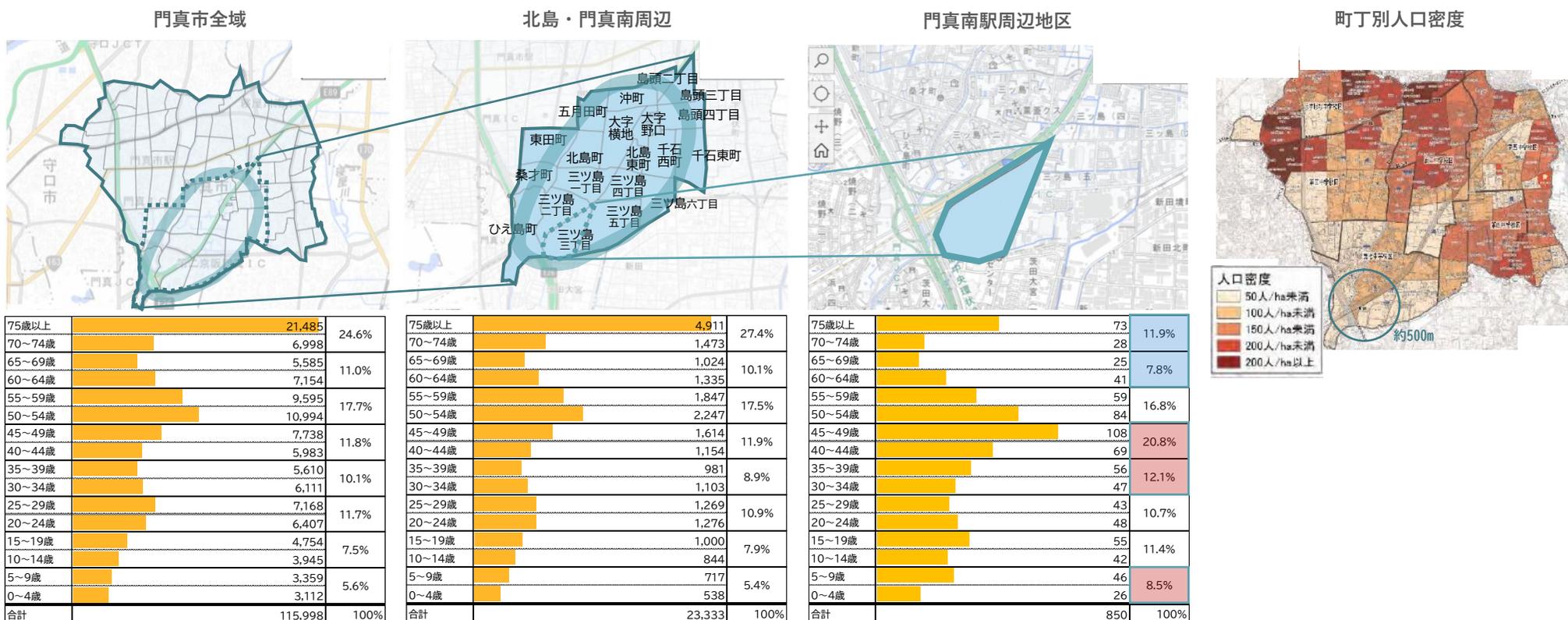


02 | 門真南駅周辺地区の現状と課題

① 人口

現在人口の定住促進に加え、大阪モノレール延伸を契機とした子育て世代に選ばれるためのまちづくりが求められます。

北島・門真南駅周辺エリアは、大阪府全域や門真市全域と比べて、30代の子育て世代と10歳未満の子どもとの割合が低く、70代以上の割合が高くなっています。一方で、本地区は総人口に対する0～9歳や30～49歳の人口割合は市平均よりも高く、60歳以上の人口割合は市平均よりも低くなっています。人口密度は低いものの、マンションや戸建て住宅の供給により、30～40代の割合が多く、子育て世帯の割合が多いことが推測されることから、定住促進につながるまちづくりが求められます。



出典：門真市 町別年齢別人口(5歳階級)(令和6(2024)年度)
 ※門真市 町別年齢別人口(5歳階級)(令和6(2024)年度)を加工して作成

02 | 門真南駅周辺地区の現状と課題

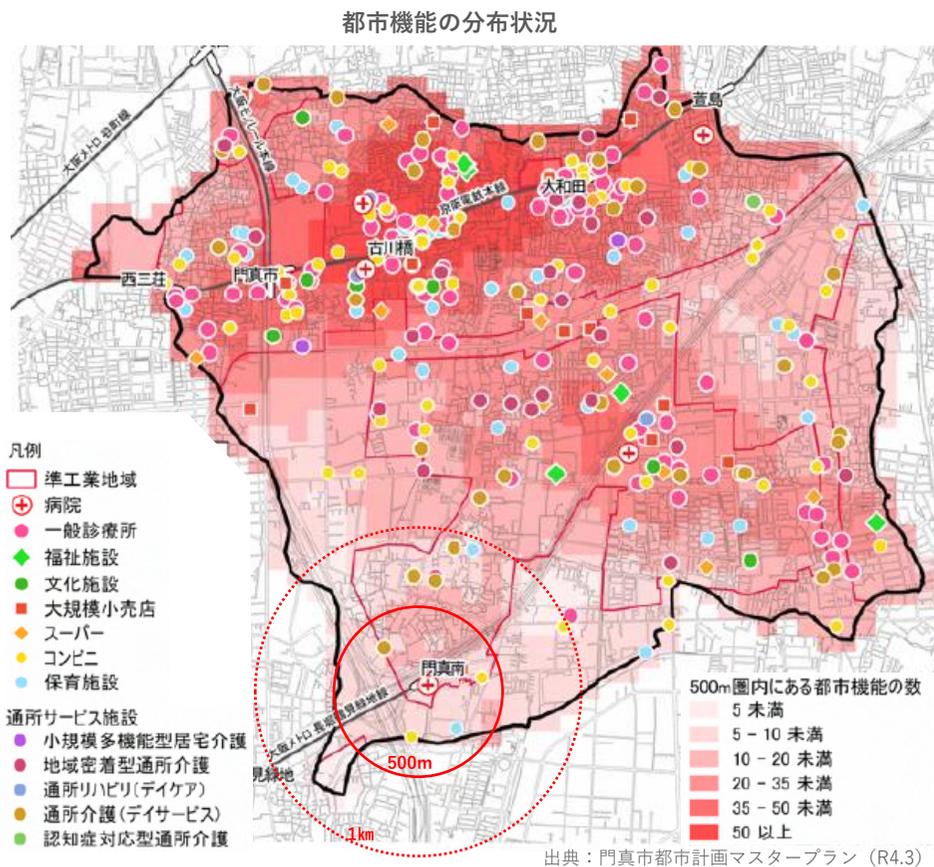
② 都市機能

市民の日常生活を支える都市機能を整備することで、駅前立地という利便性を活かした、住民ニーズに即したにぎわいづくりが求められます。

市域南西部の門真南駅を中心とした半径1km程度の範囲は、市内では都市機能の集積が少ないエリアです。

令和2年10月に実施された『「都市計画マスタープラン」「立地適正化計画」見直しに係る市民意識調査』では、本地区は日常の買い物先としての利用が少なく、駅前のにぎわいもあまり感じないという意見が多くみられることから、市民ニーズに即した都市機能の誘導が求められます。

02 門真南駅周辺地区の現状と課題



駅前広場



ドラッグストア



クリニックモール



大阪府立
門真スポーツセンター



ショッピングセンター



リハビリ病院・デイサービス



コンビニエンスストア



幼稚園

02 | 門真南駅周辺地区の現状と課題

③-1 交通（鉄道）

市南部の玄関口として、大阪モノレールの延伸を契機とした、賑わいと魅力のあるまちづくりが求められます。

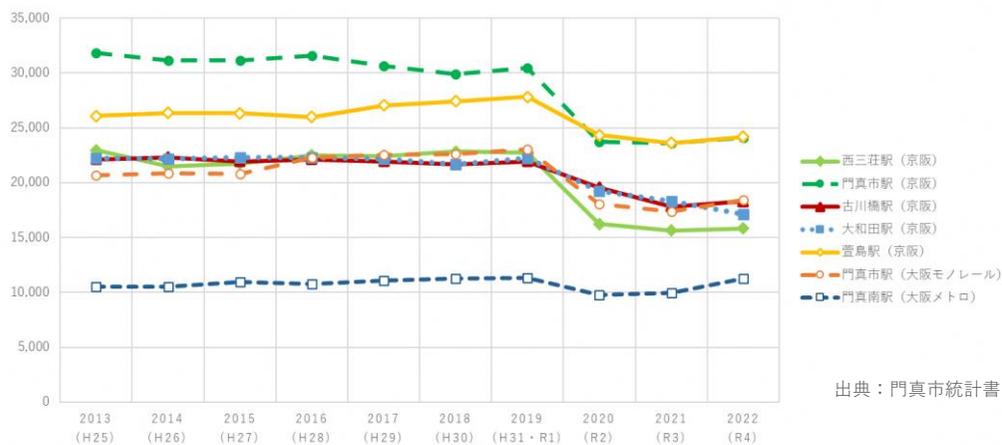
Osaka Metro長堀鶴見緑地線 門真南駅は1日あたりの駅の乗降客数が市内最小で、定期割合も3分の1以下となっている（他駅は5割前後）ことから、来街者が多いことが特徴です。

また、大阪モノレール（仮称）門真南駅は、2033年度に開業予定であり、門真市駅から（仮称）瓜生堂駅（東大阪市）まで延伸され、新たにJRや近鉄と接続されることで、新駅の開業による駅利用者数の増加が予想されることから、市南部の玄関口として相応しい賑わいと魅力創出に取り組み、来街者の滞在空間の整備と定住促進につなげることが求められます。

図・駅乗降客数の推移

※モノレール門真市駅は、年間の乗降者総数を365日で割って1日あたりの客数を算出

駅乗降客数の推移



出典：門真市統計書

長堀鶴見緑地線 門真南駅の乗降車人員

(単位：人)

調査日	乗 車			降 車			合 計		
	総 数	定 期	定期外	総 数	定 期	定期外	総 数	定 期	定期外
令和4年11月15日(火)	5,631	1,813	3,818	5,638	1,795	3,843	11,269	3,608	7,661
【参考】令和5年11月7日(火)	5,433	-	-	5,417	-	-	10,850	-	-

資料：大阪市高速電気軌道株式会社 (Osaka Metro)

※三井アクトレック大阪鶴見は2023(R5)年3月閉館

かどまみなみ (仮称)門真南駅



○大阪モノレール延伸事業

【事業主体】

大阪府、大阪モノレール株式会社

【開業目標】

2033年度

【門真南駅概要】

地上2階建て

Osaka Metro 長堀鶴見緑地線乗り換え



出典：大阪モノレール延伸事業パンフレット (R6.11)

02 | 門真南駅周辺地区の現状と課題

③-2 交通（バス）

大阪モノレールの延伸を契機とし、都市機能再編に合わせた市南部における公共交通の確保が求められます。

門真南駅を発着するバス路線は、門真南駅と大阪駅を結ぶ大阪シティバスの1路線が運行していますが、「地下鉄門真南」の乗降客数は、他の主要停留所と比較して最小となっています。

また、2023年3月までは、門真南駅から北島周辺を経由する路線バスが運行されていましたが、現在は、廃止路線の代替交通及び既存路線バスと連絡し、市内各方面への移動を目的として、門真南駅から北島周辺を経由し、ららぽーと門真、門真市駅、市役所までを循環する門真市循環バスを、2025年7月より実験的に運行しています。（朝4便、昼3便、夕5便の1日12便）

さらには、長い距離を歩くことが負担である高齢者、障がい者、妊産婦を対象とした、日常生活の通院や買い物用に利用しやすい乗合タクシーを門真団地付近を中心とした南東部地域で2023年4月より実験的に運行しています。（9時～17時）

以上を踏まえると、公共交通と連携したまちづくりが求められます。



出典：門真市循環バスガラスケ号運行チラシ（令和7年7月版）

京阪バス 主要停留所の乗降人員

平均（1日あたり）の数値である

（単位：人）

年度	免許試験場		京阪大和田駅		門真団地		地下鉄門真南	
	乗車	降車	乗車	降車	乗車	降車	乗車	降車
令和4年度	283	422	1,165	1,059	322	334	20	25

資料：京阪バス株式会社

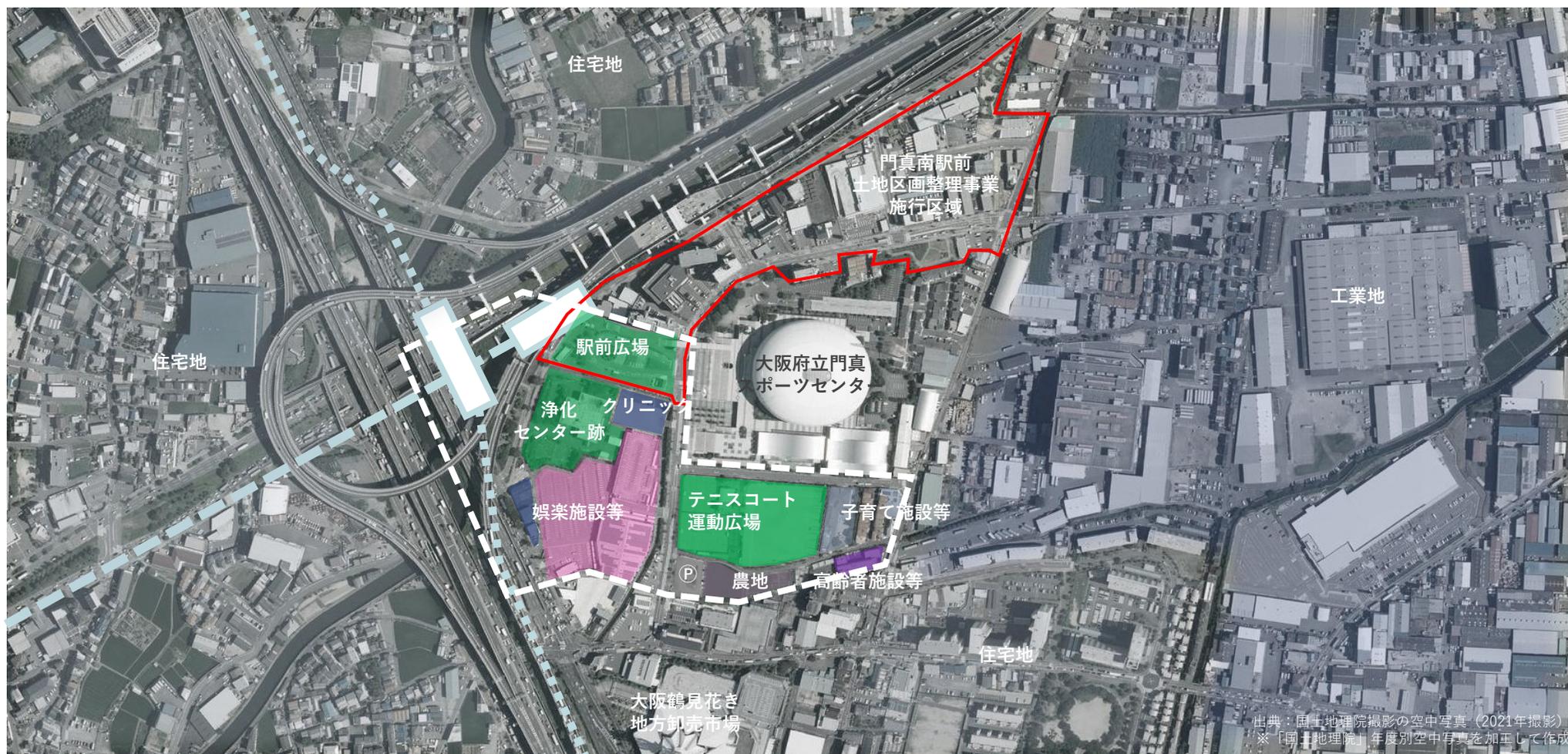
出典：門真市統計書

02 | 門真南駅周辺地区の現状と課題

④ 土地利用

地域住民や来街者が滞留してくつろげるオープンスペースや、滞在するきっかけとなる新たな都市機能が求められます。

本地区の土地利用は、大規模なスポーツ施設や娯楽施設といった低容積率の建物の立地が目立ちます。また、空地が存在するものの人が滞留できる設えになっていないことから、オープンスペースや滞在につながる都市機能の誘導が求められます。



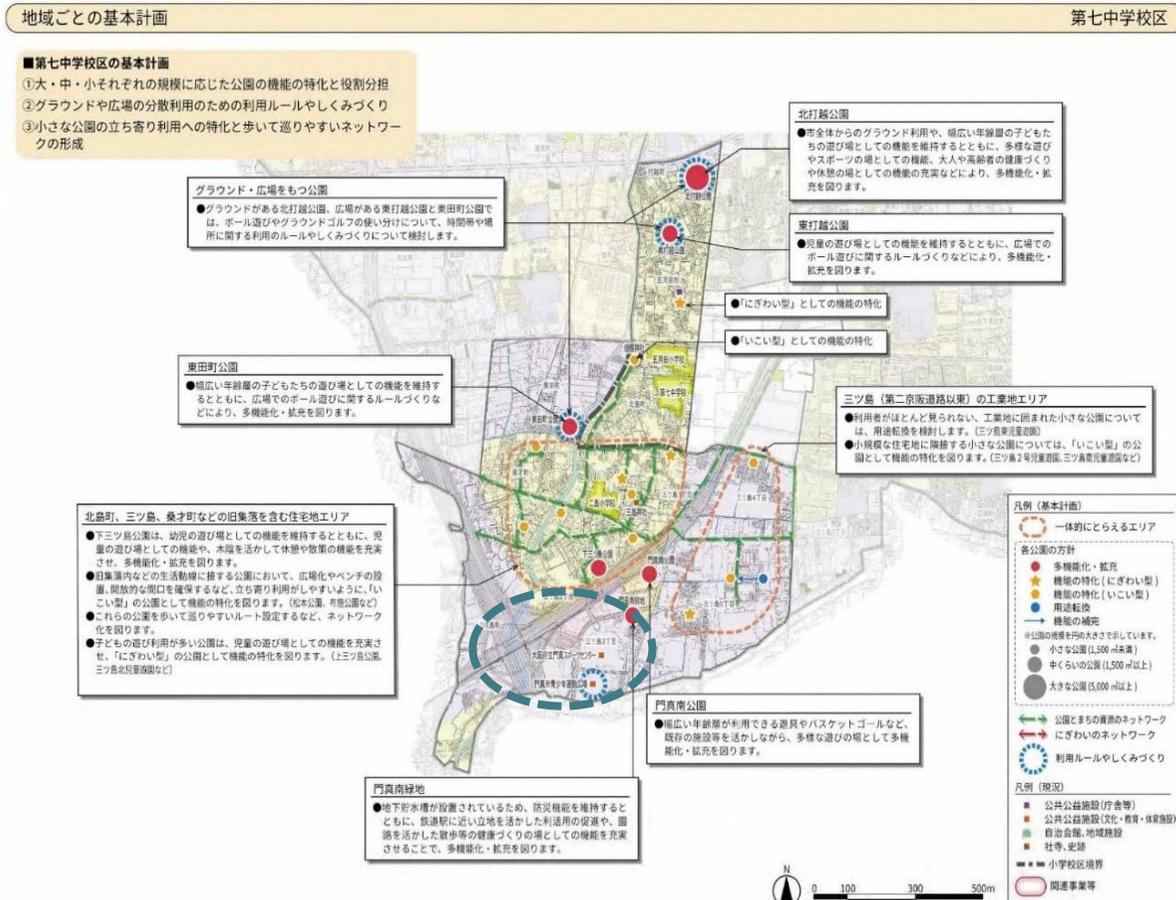
02 | 門真南駅周辺地区の現状と課題

⑤ 公園

周辺の都市機能（スポーツ施設や保育園）と連携した、地域の子どもや子育て世帯が安心して過ごせる遊び場が求められます。

本地区が含まれる第七中学校区は、中心部から北側に公園機能が多く分布しています。一方で、本地区周辺には大阪府立門真スポーツセンターや子育て施設がありますが、市内に公園機能が少ない状況であることから、子どもが安心して過ごせる遊び場が求められます。

門真市パークイノベーション計画での基本計画（第7中学校区）



出典：門真市パークイノベーション計画（R5.3）

⑥ 緑化

駅前周辺や公共施設など、人が集まりやすい場所におけるみどりの質を高めることが求められます。

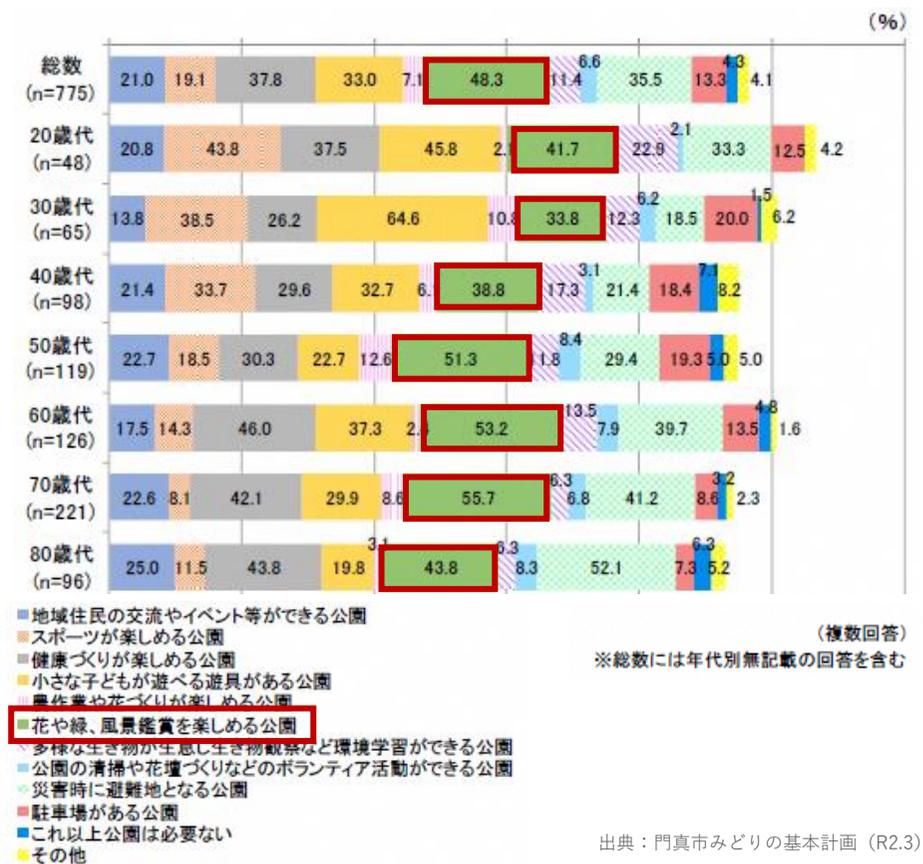
本地区は、門真市みどりの基本計画で「モデル地区として高い波及効果が期待できる地区」に位置付けられており、市の南の玄関口にふさわしい、豊かなみどりの整備が求められています。また、みどりに関する市民アンケートにおいて、あればよいと思う公園については「花や緑、風景鑑賞を楽しめる公園」の回答割合が高くなっていることから、みどりの質を高めることが求められます。

みどりの整備方針（門真南駅周辺地区）



出典：門真市みどりの基本計画（R2.3）

公園に対する市民意向「あればよいと思う公園」



出典：門真市みどりの基本計画（R2.3）

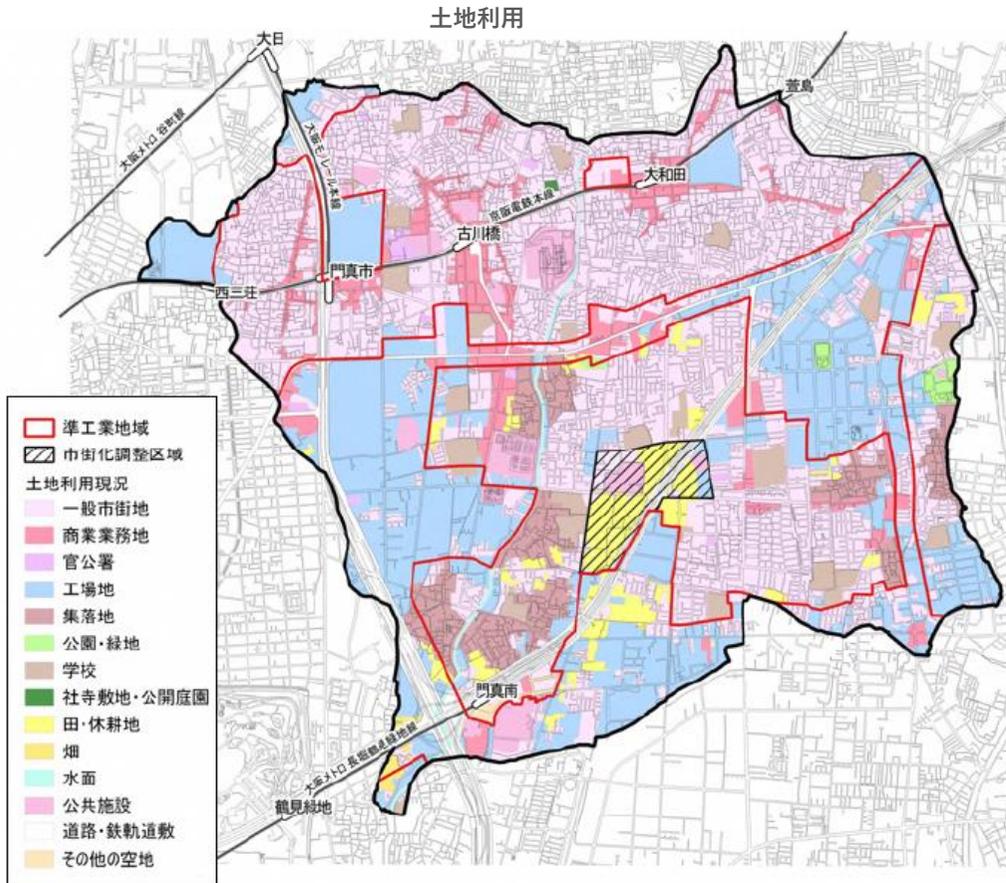
02 | 門真南駅周辺地区の現状と課題

⑦-1 農地（分布・市民意向）

かつて農村であった地域の歴史や環境といった文脈を読み解き、農地の有効活用や市民農園といった農に触れ合える環境整備について、所有者の意向も踏まえた検討が求められます。

農業従事者は減少していますが、中部・南部には農地が点在しています。また、南部地域は北部に比べて、みどりに関する市民アンケートの「市民農園などで家庭菜園をしたい」との回答割合が高くなっていることから、環境整備についての検討が求められます。

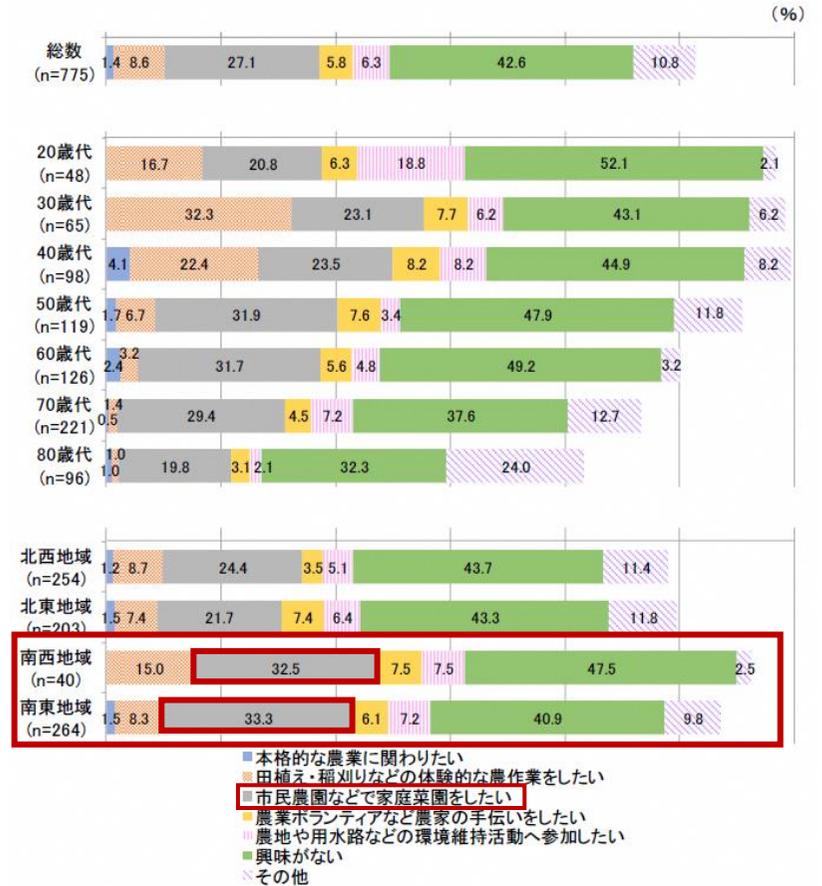
02 門真南駅周辺地区の現状と課題



資料: 土地利用現況図(令和2(2020)年)

出典: 門真市都市計画マスタープラン (R4.3)

みどりに対する市民意向「農業に関する意向」



出典: 門真市みどりの基本計画 (R2.3)

02 | 門真南駅周辺地区の現状と課題

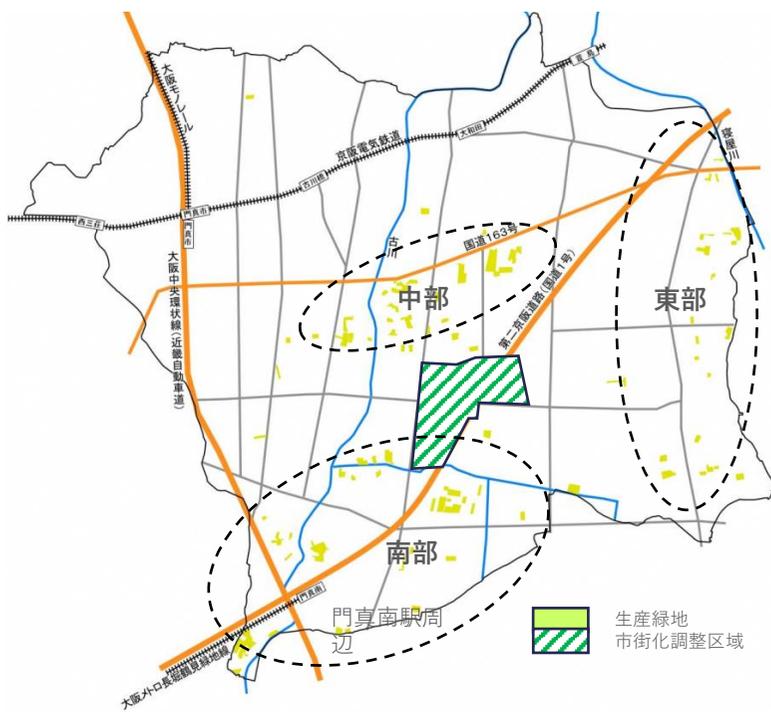
⑦-2 農地（生産緑地）

生産緑地を市民農園といった市民交流の場や、安全・安心のための防災協力農地として活用していくことが求められます。

生産緑地は、市域の中部、東部とともに、本地区を含む南部にも多く分布しています。また、市域の中央付近に市街化調整区域が残っていますが、市街化区域編入及び土地区画整理事業が予定され、宅地化が進んでいます。

生産緑地に関するアンケートでは、生産緑地を貸してもよいと思う利用法について「市民農園」の回答割合が最も多くなっていることから、市民交流の場の創出等を検討することが求められます。

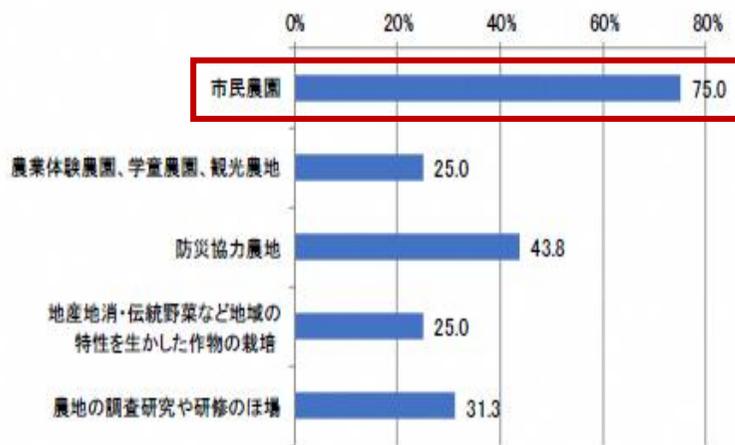
門真市の生産緑地及び市街化調整区域の指定状況



出典：門真市みどりの基本計画（R2.3）

生産緑地所有者の意向「生産緑地を貸してもよいと思う利用方法」

「市民農園」が最も多く、次いで「防災協力農地」「農地の調査研究や研修のほ場」となっています。



(複数回答)

出典：門真市みどりの基本計画（R2.3）

02 | 門真南駅周辺地区の現状と課題

現状と課題の整理

エリアの現状（ポテンシャル）

- アクセスの良さ・南の玄関口
- 大阪モノレール延伸による新駅設置
- 複数の市有地の存在
- 東和薬品RACTABドームの立地

エリアの課題

- にぎわいや子どもの活動の場の創出につながる北島地域との連携（機能面、交通面）
- 駅前ににぎわい創出と定住促進
- 都市機能の集積に向けた土地利用再編
- 門真市立テニスコートの大規模修繕と門真市立青少年運動広場の安全性の向上
- 門真市浄化センター跡地の利活用

本地区の現状や課題及び上位計画等を踏まえ、「子育て」を中心に将来像とコンセプトを検討

既存の立地施設機能を活かし、市南部の新たな玄関としての魅力づくり

↓
キーワード：賑わい・交流

農地や水路等自然環境の豊かさを活かしたみどりの感じる街並み

↓
キーワード：みどり・景観

子どもが多い周辺環境を活かし、子育て世帯も快適で安心できる暮らし

↓
キーワード：住まい・安全

将来像

市南部の玄関口として魅力あるまちづくりを進めるには、駅前の活性化やみどり豊かな景観形成、子育て世帯に選ばれる住環境の整備、子育て支援、公民連携による持続可能な運営体制の構築といった視点が重要です。これらの取組みが、市の目指す「子育て世帯に選ばれるまち」の実現につながることから、本地区では、将来像を「子どもが居心地よい 駅まち・門真南」として、以下のまちづくり方針を位置付け、その方針に沿ったまちづくりの取組みを推進していきます。

将来像

「子どもが居心地よい 駅まち・門真南」
～安心して育ち、地域に誇りをもてるまちづくり～

まちづくり方針

1. 地域の賑わいと交流を育む
駅前づくり
〈キーワード：賑わい・交流〉

2. みどりあふれる快適な
地域づくり
〈キーワード：みどり・景観〉

3. 多彩な魅力が調和する
まち並みづくり
〈キーワード：住まい・安全〉

まちづくりの取組み

■ ■ □ まちなかの日常の賑わい創出

- 駅前広場や公園など公共空間を有効に活用するとともに、公民連携による公共空間に隣接した敷地の活用を進め、**住民や駅利用者を中心に人が駅まちで滞在することにより、子どもたちが安心して過ごせる賑わいを創出します。**



■ ■ □ 歩行者ネットワークの形成による回遊性の向上

- 子育て世代や子どもにとって安全で歩いて楽しい歩行者空間を創出し、地区の回遊性の向上を図ることで、周辺の公園や地域につながる門真南駅前線を、**子どもも大人も歩きやすく居心地が良いまちづくり**を目指します。



■ ■ ■ 新しい都市イメージを創出する機能を導入

- 「**新しい都市イメージを創出する都市機能の導入**」に向けて、公共施設跡地などの有効活用を図るとともに、周辺の民地での開発を誘導し、都市機能誘導に向けて相乗効果を高めます。



■ ■ ■ 地域住民と育む魅力と持続的なまちづくり

- 持続的なまちづくりとなるように、住民や地域事業者、各種団体など、**地域に根差す人々が継続してまちづくりに参加できる環境づくり**に取り組みます。



■ ■ ■ 門真市南部の玄関口にふさわしい景観形成

- 「市南部の玄関口にふさわしい景観形成」に向けて、駅前では人々の流れを呼び込む空間づくりを推進するとともに、門真南駅前線周辺では、みどり豊かな空間を整備・誘導し、**子どもと家族が潤いややすらぎを感じる環境を創出することで、エリア全体の魅力向上**を図ります。



■ ■ ■ 地域に親しみを持てる住まいづくり

- 子育て世帯が安心して暮らせる住宅の整備と、周辺の農地を農園として活用するなど、住民同士の交流を促し、地域コミュニティを育み、**地域に親しみをもち住み続けられる環境**をつくります。



03 | まちづくりコンセプト

まちづくりの取組みイメージ

03 まちづくりコンセプト

・ 駅の利便性向上

・ 市有地等を活用した賑わい創出

・ 歩いて楽しい快適な歩行者空間の形成
・ 人中心の空間形成

・ 駅前広場の日常時の利活用促進
・ 市南部の魅力を向上させる駅前空間づくり

(仮称) 門真南駅
(大阪モノレール)

門真南駅 (Osaka Metro)

駅前広場

大阪府立門真スポーツセンター

門真市浄化センター跡地

テニスコート

グラウンド

駐車場

農地

・ 地域の課題解決や魅力向上に向けた取り組み
・ 住民・地域コミュニティ等の協力体制の構築

・ 多様で魅力的な都市機能の適切な誘導
・ 公的資源を積極的に活用した都市機能誘導

・ 安全・安心で魅力的な居住環境の整備
・ 門真南らしい住まい方の実践

出典：門真市Web GIS 地域マップ情報 白地図

駅前広場ゾーンイメージ

Osaka Metro門真南駅と大阪モノレール新駅は市南部の玄関口であり、それらをつなぐ広場ゾーンは、賑わいを生む駅まちの顔となる



みどり溢れる快適な歩行空間で子どもも安心して歩くことができる。



芝生緑地をもった公園のような駅前広場で、イベント等が実施される。

賑わい居住複合ゾーンイメージ

駅に隣接し利便性が高い立地にある賑わい居住複合ゾーンは、多くの市民が日常利用する賑わい機能や居住機能により、地域の賑わい拠点となる



生活利便施設等が並び、日常的に人が集まる。



子どもや家族が楽しく買い物をしながら日常を過ごすことができる。

公園ゾーンイメージ

まちの骨格となる主導線に面しており、近隣住民のアクセスも良好な公園ゾーンは、みどり豊かで、子どもたちが安心して遊べる場所となる



地域が運営にも持続的に関わることによって、地域に親しまれて賑わう。



子どもたちが、遊びを通して気づき、楽しみながら成長できる場所が生まれている。

農園ゾーンイメージ

居住ゾーンや公園ゾーンに隣接し、まちなかにとって貴重な農園ゾーンは、集合住宅や公園と一体となり、子どもの学びと地域コミュニティの拠点となる



ガーデン等を学びの場とし、地域で子どもを育てる取組みを進めている。



地域の農園として、イベント等を通じて地域の人々が交流している。

居住ゾーンイメージ

幹線道路から離れ、公園や農園・幼稚園に隣接した子どもの居場所が充実した居住ゾーンは、子育て世帯の豊かな住環境を形成する



シェア農園や共有庭などで住民同士が自然に交流が生まれている。



集合住宅の中心に広場があり、多世代が自由に交流している。



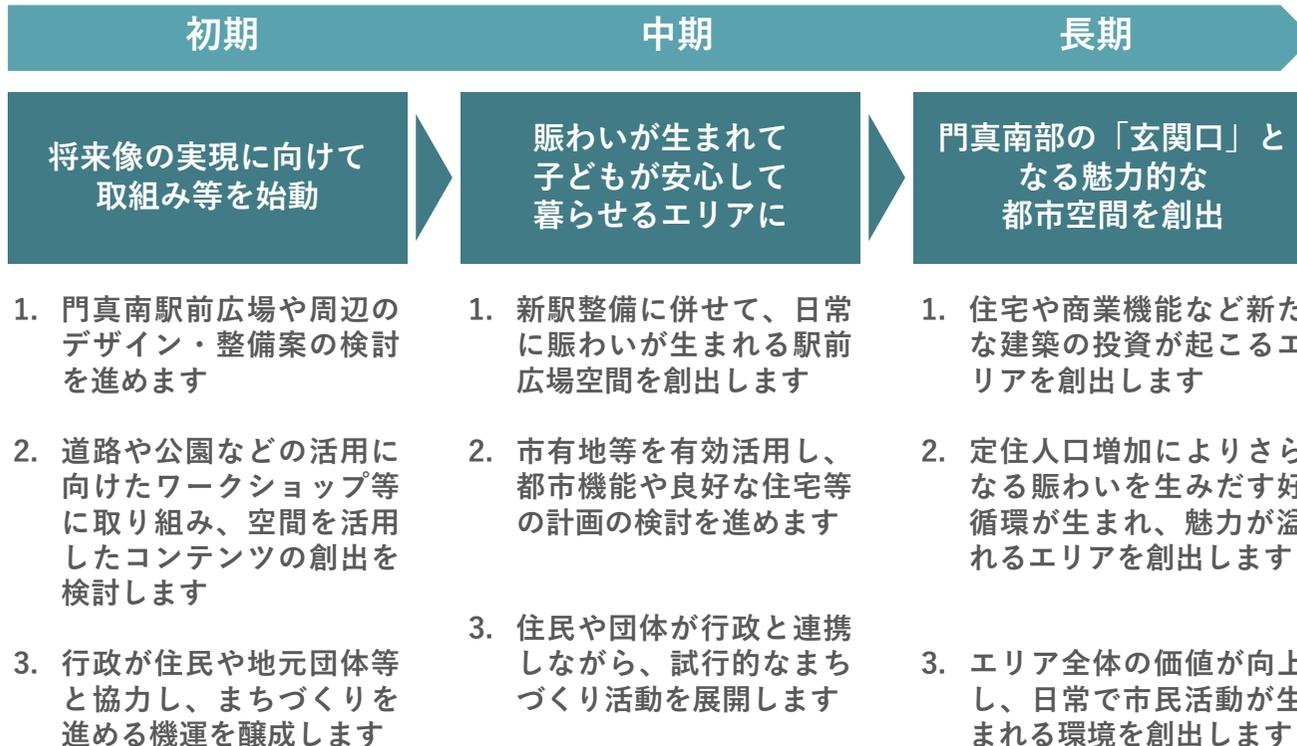
出典：門真市Web GIS 地域マップ情報 白地図

○将来像の実現プロセス

この将来像を実現し、本地区の魅力を高めていくためのプロセスはロードマップに示すとおりです。このプロセスを円滑に進めるためには、門真南駅周辺を一つのエリアと捉え、パブリックマインドを持って市有地等を効率的に有効活用していくことやコミュニティづくりの担い手が行政と連携してエリア全体を活性化させていくことが重要です。

これらを着実に推進していくことにより、エリア価値すなわち子育て世帯に選ばれるまちをつくり出し、「子どもが居心地よい 駅まち・門真南」の実現をめざします。

○将来像実現に向けたロードマップ



○まちづくり体制づくりイメージ（案）

